

第3回栄村むらづくり懇話会

—産業振興部会—

(以下 Q : Question A : Answer O : Opinion)

【1. 農林畜産業】

Q : 文言について、「変化に適用しながら」と書かれているが、これは「時代変化」なのか「ニーズの変化」なのか。何に対するものなのかを入れないとわかりづらい。

A : 両方。時代によってニーズが変化する。

O : そういった言葉を入れないと、文章を読んでいて「何の変化なのか」理解できないと思う。

A : では、単純に「時代のニーズに適応しながら」としてみては。

O : その方がわかりやすい。

Q : 林業について、「農業振興への利用」と書かれているがこれは何の事を言っているのか。また、「関西方面では」と地域にこだわっているが、特定する必要があるのか。

A : 来年から阪急百貨店が「美雪和牛」を取扱うことが決まっております、その影響。

O : 美雪ブランドは、元々関東で取扱いがあることから、関東・関西と表現したほうが良いのではないかと。

O : 信州牛を関西で売るときには「プレミアム牛肉」という信州ブランドで販売するのだが、来年から阪急で「美雪和牛」として取り扱われる。長野県では、信州牛という包括的なブランドで販売しているが、美雪和牛は個別・独自の地域ブランドとして特色を持っている。

A : では、ここでは「関東や関西方面など」という表現に変更させていただく。

O : 「農業振興への利用」については、唐突すぎて一般人にはわかりにくい。

Q : 米づくりについては、これを実施していくうえでの人材確保などは記載しなくてよいのか。

A : 後ろの「後継者」のところでは触れている。担い手がいなくては、いくら良い案が出てても無駄になってしまう。「やりがいのある農業を目指すために、意欲ある農業者」の部分では、今いる農業者を指しているのだから、それだけでなく「新たな農業者」を入れてという形にしてみようと思う。

O : 米づくりは、米のブランド化という意味でも重要だと思うが、米によって集落が守られるという側面もある。それについても、どこかに記載してもらいたい。

A : それについては、計画の中の構想の面で記載しようと思う。

O : 栄村のブランドを一つ一つ作り上げていかなければ。米にしる、トマトジュースにしる、肉や野菜にしる。ブランドというものが、段々先細りになっていくような気がする。「栄村といえばこれだ」といえるようなものを作り上げていかなければ。

A : そういったものの販売能力が栄村には足りない。

- ：良い物をつくれればブランドにつながっていくのでは。美雪和牛を阪急が取り扱うことについても、全てのデパートというわけではなく、阪急の一部高級デパートで取り扱いたいと話がきた。他のデパートでは、一般的な信州牛が良いが、高級デパートでは品質にこだわりたいということで美雪和牛が選ばれた。何にしてもそうだと思うが、味など質の良いものを作ることがブランド化において大事で、単純に「栄村だから」というものではないと思う。
- ：確かに、栄村みたいなところは日本中にいくらでもある。消費者の需要の中で、受け入れられるものを提供できるかを考え、施策を展開しないと、持続できる本当のブランドにはならないと思う。
- ：ブランド化を考えると、イメージ作りが大事。「綺麗な水で作っている」といったことをどうやってイメージ化し、伝えていくか。
- A：それでは、「美味しいものと自信をもってお薦めできる地域ブランド化を目指す」といった文言を加えようと思う。
- ：「自然豊かななかで育てている農作物」というイメージは、一つの強みとしていかなければならない。それだけではなく、それに伴う生産技術や販売戦略がないとうまくいかない。そのあたりをどうするかという具体策を練り上げていくのが実施面で重要なこと。
- A：まだ具体的には決められないが、観光や商工業も含め、全般的に考えていく。
- ：村として、どの農家でも品質を一定に保てるだけの浸透はしてきている。厳格にやるのであれば、認証制度などをつくり村が品質などを管理することも一案。
- A：それでは、「栄村の地域ブランドをつくる、目指す」という文言をここに入れる。
- ：「新たに人を増やす」というイメージをどこかに入れてほしい。
- A：先ほど述べた、「意欲ある農業者～」というところで新規就農者について記載する。それでは、「新規就農者を増やす」ということと「地域ブランド化を目指す」ということを盛り込むことにする。
- ：「儲け」の部分など、第一回目にも出た農業関係者が夢を持てるような内容が必要ではないか。
- ：文章が漠然とした表現にしまっていることが原因ではないか。「専業でやっている農業」と「自給自足的農業」が文章の中に混在している。「儲かる」という言葉が適切かどうか。
- ：生活が豊かになるなど、ある程度生産意欲が湧くものでないと、やりがいというものが出ないのではないか。それをどういった表現にするかの問題だと思う。
- ：「新規就農者の確保と育成」については、組織化やそれによる支援など、具体的な文言が欲しい。
- ：どういったものが良いかというのはこれからであり、この議論は基本計画についてであることから、「栄村独自の新しい農業支援体制をつくっていかねばいけない」ということを書けば良いのではないか。

O:「今までとは違う新しい戦略を練っていく」という文言が入っていれば、期待できるようになる。新規就農を増やすには何が必要なのかなど、細かいところは1年、2年かけて決めていけばいいのではないかな。

O:花や野菜など、専業農家を育てていくという文言をどこかに入れていく必要があるのではないかな。

A:それでは、この文言は残したうえで、「新しい農業を構築するため、支援機関を設置する」「専業農家を支援する」といった文言を加えることでよいか。

O:「支援機関を設置して、新しい農業ブランドを構築していく」という表現でよいのではないかな。

O:栄村の産業を考えた際に、狩猟というのは重要な位置づけにあると思っている。文化的にも観光的にも関わっているところであり、行政が絡まないとできないことでもあるため、どこかに文言を入れてもらいたい。

O:「狩猟」を新しい考えとして位置づける必要があるかということになる。今のところは「鳥獣害駆除」という農業面での害を駆除することに位置づけられているが、それよりも観光なり新しい産業として取り組んでいくということであれば相応の修正が必要になる。

A:恐らく林業のほうでジビエの研究をすることになると思うので、そちらに盛り込むのではないかな。また、農業のほうでは「観光農園の展開を図る」という文言も入れることとする。

O:林業については、国内外の先進事例を参考にした取り組みなど、情報や文言を入れたほうが、将来構想として良いのではないかなと思う。

A:「木材の新たな利用方法を研究する」という表現については検討する。「狩猟従事者の育成」と「ジビエの推進」については盛り込むこととする。

O:「畜産価格の低迷」とあるが、最近是非常に高騰している状態にある。そのため、この文言は除いてもらいたい。

A:「近年の畜産経営を取り巻く情勢」と修正する。

【2. 商工業】

O:「郷土食」は商工業に盛り込む内容になるのか。

A:加工品という枠組みになる。

Q:移動購買車については、JA はじめ色々ところで昔から取り組んでいたと思うが、あれが続かない理由は何なのか。

A:車の維持管理費が大きいことが一因。また、宅配利用が進むなど、利用者が減っているなども考えられる。

O:「買い物弱者対策を充実させる」「研究する」という表現が良いのではないかな。

A:「村内の消費拡大のため、商工会と連携した買い物宅配などに参入する」という文言を入れることとする。

O：積極的にどのように取り組むのかを文言として入れてもらいたい。「調理の組織化」や「調理人の招集」など、具体的かつ積極的な文言が文章に入らないと、展開するのも難しいのではないか。

O：「販売戦略も含めたトータルの取り組み」のような文言を入れてもらった方がいいのではないか。

【3. 観光】

O：「振興公社や民間宿泊施設を核とした宿泊施設等の連携」を入れればいいのではないか。

A：「経営の健全化を図ります」の部分も「誘客を進めます」程度にする。

O：観光施設については、栄村の観光とはどういったものかというのを一番上に持ってくるだけで読み手の印象は違うのではないか。

A：順番を変えるだけでも違うと思うので検討してみる。

O：スキー場の関係については、「総合戦略」とすれば色々な意味が読み取れると思うのだが、二番煎じでも良いのもっと他の成功事例を盛り込んでもいいのではないか。

O：村民が、村のスキー場であるという意識をもっと持てるような取り組みをしてもらいたい。村民のスキー離れがあるという現状があるので、そんなに遠い存在ではないのだという意識を植え付けてもらいたい。

Q：「構造改革特別区域」というのはどこのことを指しているのか。

A：農家民宿を含めたどぶろく特区を指している。

O：連携対象について、雪国観光圏から信越自然郷までとなっているが、ジオサイトの注目などを考慮すればもっと違うものが入るべきではないか。また、千曲川のラフティングなど、今後需要増加が見込まれるところが入っていない。更に、道の駅には総合案内所が必要。電車よりも車利用が圧倒的に多い当地域においては、観光案内機能を移す必要があるのではないか。

O：人材の育成を検討してもらいたい。地域観光については、村民を引っ張っていくリーダーがいない。外から人を呼んでくるという発想になりがちだが、地域の住民が真剣にならないと人が来るはずもない。本気で観光振興に取り組むと考えているのであれば、あれをするこれをする前に、人材づくりをしっかりしなければいけないと思う。そういったものの支援や取り組みが必要でないか。

O：「観光業の人材とそれを伝える人材を育てる支援をする」など、文言を入れてはどうか。

A：では、旅館・民宿の支援のところで観光業の担い手を、観光イベント・情報・宣伝のところにガイドを盛り込むようにする。あとは、道の駅のインフォメーションセンター設置についても検討する。

【4. 起業の促進と企業誘致】

O：起業促進については、施策の展開のところで該当するものがない。また、起業支援だと、

新しく会社を起こす人のみが対象になってしまうので、事業支援という形で何かをやってもらえればと思う。

A:現状の考えでは、雇用促進の補助などを考えている。新規雇用の条件というところで色々取り組んでいる。具体的な内容は検討しており、今後の計画の中に盛り込むことになる。

【5. 交流の促進、6. 移住・定住の促進】

Q:栄村の交流都市が二つあるが、その理由はあるのか。

A:武蔵村山は、過去に姉妹都市提携をしたという経緯があり、横浜の栄区については30年ほど前に民間交流が始まり、その後正式に提携したという経緯がある。栄区については、同じ「栄」が入っていることからつながりが生まれた。

Q:今後、こういった姉妹都市を増やしていくということはあるのか。戦略的にお互いにメリットを見出していくことも一つ重要かと思う。

A:そういった意味では、東京都北区の王子団地5~6,000世帯と交流があり、こちらとしてもアピールをしている。

O:そういった団体があるのであれば、開示をして交流していくような文言を入れてもいいのではないか。

A:「村を支援してくれる個人や団体」のなかに含まれている。村としては、村民からそういった要望があれば支援する方針。

以上